令和6年度 第3回 大垣市図書館協議会
会議録（要旨）

１　開催日時　　令和7年2月28日（金）14時～15時10分

２　開催場所　　大垣市立図書館3階　会議室

３　出 席 者　**（委員）**

田村弘司会長、石橋豊之副会長、横山幸司委員、
高木美保委員、近藤則朗委員、佐久間理恵委員、
高木佐知子委員

（事務局）

平松教育委員会事務局長、橋本図書館長、
大江図書館主幹、長瀬図書館主幹、早崎図書館主幹

４　傍 聴 者　　1名

５　次　第

(1)議題

令和7年度の事業計画（案）について

(2)報告

①令和7年度 図書館利用者アンケート調査の実施について

②大垣市第2次教育振興基本計画（後期計画）（案）について

(3)その他

１　開会　14:00

（事務局）

令和6年度 第3回 大垣市図書館協議会を開催する。

２　あいさつ

（事務局長）

本日は年度末の多忙の中を出席いただき、お礼申し上げる。
今年度の図書館協議会は、大垣市第2次教育振興基本計画（後期計画）の改定のため、例年より１回多く、計３回開催させていただいた。前回は台風の接近により書面開催による承認という形となったが、委員の皆様から貴重なご意見をいただき、感謝を申し上げる。

本日の会議では、令和7年度の事業計画案と、令和7年度の図書館利用者アンケート調査の実施について、また先ほど述べた大垣市第2次教育振興基本計画の後期計画案における図書館活用分野の最終案を報告をさせていただくので、忌憚のない様々なご意見をお願いしたい。

（会長）

今年は例年になく雪が多く降った。子どもの頃に経験した三八豪雪（昭和38年1月豪雪）や五六豪雪（昭和56年豪雪）の時もかなりの大雪で、それ時以来の大雪だったような気もする。１月には米国のＬＡで大きな山火事があり、日本でも岩手県で山火事があった。何か気候的な要因も影響しているのかもしれない。一方、東京では桜の開花の話題もあり、墨俣の桜の開花時期も間近かなと思うと、楽しみもある。

３　議題(1)　令和7年度の事業計画（案）について

↓

（委員）

ボランティア活動の対面朗読について、利用状況や受入体制、周知方法などについて教えていただきたい。

（事務局）

昨年まで対面朗読の希望者が1人いたが、その方が事情により来られなくなった。現在は希望者がいない状態であるが、対面朗読の募集は随時行っている。図書館としては、いつでも対応できるよう、音訳ボランティアを2人ほど確保している。周知方法としては、図書館ホームページの利用案内（障がいがある方へのサービス）に掲載したり、館内で点字図書や拡大鏡を利用されている方

へ直接声をかけることもある。

（委員）

工事・修繕にある工事は、図書館予算書の中のどの事業で執行するのか。

（事務局）

図書館営繕事業の事業費で執行する。

（委員）

図書館事業全体を見ると、多種多様なサービスを計画されているが、講座や講演会は文学に偏ってるような気がするため、大垣市の産業に関することや、岐阜協立大学と連携して、大学の先生を招いた講座や講演などがあってもいいかもしれない。

大垣市の産業でいうと、長い歴史を誇る赤坂の石灰は、他に類を見ないほど良質なものらしい。昨今、ＵＳスチールの件が話題になっているが、日本製の良質な薄い鉄と同等のものが米国では作れないらしく、製鉄産業に石灰が必要なことや、名古屋市近辺にトヨタ関連の産業が集積しているのは、周辺地域にこれを下支えする産業的基盤があることなども、子どもたちに教えたり、勉強してもらいたいと思う。

また、高齢化社会を迎え、介護や健康をテーマにした講座や、市民が親しみやすい料理講座など、テーマの範囲を広げてもいいのではないだろうか。

（事務局）

市民が興味ありそうな身近なテーマとして、介護や健康のほかにも、最近ではＮＩＳＡ等の投資や金融に関することなどもある。こうした分野に関連する講座も視野に入れ、図書館の利用拡大にも繋げられる企画も考えていきたい。

来年度は新規の試みとして、整理収納アドバイザーを講師に招き「暮らしに役立つ図書館講座」を予定しているが、市民が興味ある分野を探りつつ、毎年テーマを変えて取り組んでいきたい。

（委員）

地元の岐阜協立大学には、経済学部や経営学部（スポーツ経営学科）があり、経済学や健康・スポーツ分野専門の先生もいるため、そうした先生による講座があっても、切り口としてはいいのかなと思う。

先日、ＮＨＫの「歴史探偵」という番組で「白川郷と五箇山／歴史を動かした合掌造り」が放映された。何が歴史と関係あるのだろうと興味深く見ていたところ、白川郷で作られた生糸が江戸時代の経済危機を救ったという内容で、

それまで生糸は海外からの輸入に頼っていたが、白川郷の生糸が京都の西陣織に採用されたり、京都の本願寺へ送られたという。江戸幕府は、欧米に生糸を輸出し、世界最大の生糸輸出国になった後に、富岡製糸場が設立されるなど、明治時代以降の日本の産業を支えたという内容だった。歴史番組でありながら、産業面に焦点を当てる切り口が面白いなと思った。これは一つの例だが、切り口を変えることにより、市民が親しみやすく勉強できるのかなと思った。

大学にも市民講座があるが、少し敷居が高く感じられるため、身近な図書館での講座の方が、市民としては利用しやすいと思う。

（委員）

図書館の講座の受講者は、固定された人が毎回受講するイメージがあるが、参加者層は毎回変わるのだろうか。

（事務局）

「暮らしに役立つ図書館講座」は、毎年テーマを変えて開催する予定だが、テーマごとに興味がある方や参加者層も変わってくるのではないかと期待している。

（委員）

図書館ホームページがリニューアルされ、以前のものと表示形式が変わったが、知りたい情報にたどり着くまでにワンステップかツーステップ必要なので、サイトを開いた時、知りたい情報に容易にアクセスできる形になればいいなと感じることがある。

また、館内の資料検索機等も更新され、使い方や設置場所が変更されたり、以前、資料検索機があった場所がセルフ貸出機になったり、配置場所も変更があったため、利用者への周知が行き届くと良いと思う。

（事務局）

図書館システムの変更に伴い、セルフ貸出機を1台増設し、館内の設置機器の場所を変更したため、利用者へは周知していきたい。図書館ホームページも、リニューアルしてまだ日が浅いが、利用者の声や指摘等も反映しながら、改善していきたい。

（委員）

図書館講座が文学寄りではないかという指摘が先ほどあったが、文学のジャンルは本当に幅が広い。私は俳句関係に関わっていることもあり、俳句の関連事業なら、奥の細道むすびの地記念館もあるのだが、2月と3月に図書館が開催

する西田拓郎先生による文学講座（俳聖・松尾芭蕉の俳句入門）は、図書館でも俳句が学べる、つまり図書館ではいろいろなことが学べることをＰＲできる良い講座だと思う。先ほどのテーマを幅を広げる話にもつながるが、図書館へ行けば幅広く学べるというコンセプトは大事だと思う。

私が学校現場にいた頃は、子どもたちに司書が選んだ本が届くという取り組みはなく、本は子どもたち自身が選んでいたが、自分が選ばないような本が手元に届くという手法は斬新で良いと思った。

そういう新しい試みをどんどん取り入れる一方、スイトピア協力隊は、私が興文中学校にいた頃から始まったことで、それから30年近くが過ぎたが、今も続いてることを感慨深く思うし、感謝したい。長く継続していることと新しいことがうまく絡み合っているのがすばらしい。先ほどは赤ちゃんを抱っこした母親と館内ですれ違ったが、そういう方も気軽に図書館を利用しているのは良い光景だった。ほぼ感想となったが、本当にそう思うし、謝意も申し上げたい。

（委員）

子どもの本離れが加速しているが、大人も同じ状況ではないだろうか。今はスマホで何でもすぐに見られるため、新聞等のオールドメディア等は存続危機が懸念されているが、本や新聞には子どもの時から親しんでおくべきだと思う。そうした視点でも、ブックスタート事業は意義ある取り組みなので、今後も一層推進してもらいたい。

（委員）

私が勤務する学校は、市立図書館までは距離があり、子どもたちが市立図書館を利用するには家族に連れていってもらう必要がある。2月に426名分（全校児童分）のお楽しみ本パックを、市立図書館から学校に届けてもらった。本が綺麗にパッケージされており、楽しい仕掛けもいっぱいあった。子どもたちは興味津々で、とても喜んでおり、1年生は1年生向けの喜ぶ本が、6年生には読みごたえのある本や工業などのジャンル本、「ひみつシリーズ」みたいな本などが入っていて、子どもたちの間で交換している姿も見られた。

子どもが自分で本を選ぶのも大切だが、どうしても好きな本に偏ってしまうため、幅広いジャンルの本を読んでもらうよう、本校の学校図書館では、図書館まつりなどでビンゴゲームのような形式を取り入れ、全ジャンルの本を読んだら〇（マル）みたいな取り組みも行っている。それでも、ＮＤＣの０分類や哲学など人気のない本には、なかなか手が届かないという実態もある。

前任校に引き続き、今回も市立図書館からいろいろな本を届けてもらい、子どもたちは喜んで本を読んでいたし、普段は選ばないような本に接する機会を与えてもらったことにより読書の間口も広がったので、本当に感謝したい。

私は現在、大垣市の図書館教育部会の担当で、いろいろな学校で展開できればと思うが、他の学校でもやっているのだろうか。

（事務局）

まだ少ないのが現状である。こうしたことを一度経験された学校であれば、続けたいというリクエストがあるが、未経験の学校では、そうしたノウハウをもつ先生がいないのかもしれない。

（委員）

本校の図書館担当は、「市立図書館からこれだけの本が届いて、楽しい本がいっぱい入っていたよ」と、子どもたちにプレゼンテーションをしてから本を配ったが、とても好評だったので、図書館部会教育部会でも広めていきたい。

（委員）

学校の朝の読書活動は現在、どうなっているのだろうか。

（委員）

今は、時間的に余裕をもって始業しようという学校が多く、朝の読書活動はなくなりつつある。そのため、本校では1週間に1回、低学年の子を毎日図書室に連れて行き、本の入替をさせている。青墓小では、母親が読み聞かせをしていたり、そういう学校だと読書活動への取り組み方や理解が違うと思う。

朝の読書活動による業務負担をなくしたり、教員の帰宅時間を早めるなどの働き方改革の波が来ているのも事実である。

（委員）

私も学校現場にいた頃、朝の読書活動をやっていたが、最近の様子を聞くと、朝の読書活動を実施していない学校が多いと聞いている。様々な事情があるので実施が難しいのかもしれない。

市内の書店が減っているのも困った問題だと思う。子どもたちが本に接する場が限定されるため、そういう点を考慮すると、図書館を大いに利用してもらいたいが、ベストセラーや新刊は出版直後に人気が集中し、なかなか借りられないため、読みたい時に読めないというジレンマもある。

４　報告(1)　令和7年度図書館利用者アンケート調査の実施について

↓

（委員）

設問が前回より少しコンパクトになったが、アンケート用紙に書かれたもの

を集計するため、大変な作業になるが、よろしくお願いしたい。

４　報告(2)　大垣市第2次教育振興基本計画（後期計画）（案）について

↓

（委員）

指標と目標値（p.33）の歴史講座満足度についての基準値が63.2%に対して目標値が80.0%となっており、他のものは目標値に対する基準値の差がないのに比べると差が大きいが、何か理由があるのだろうか。

（事務局）

歴史講座の最終日にアンケートを行うと、普通もしくは満足していただいている受講者が多いが、今回新規事業として掲げた講座（ふるさと古文書基礎講座）のように、図書館で初めて歴史を学ぶ方にも楽しく講座を受けていただき、その反響も期待する目標値とした。

アンケート結果では、受講者から毎回いろいろな声やご意見いただき、次年度に反映したり工夫すべき点もあるため、目標値は高めではあるが、努力目標も含めた数値として設定した。

（委員）

個人的な感覚として、図書館の歴史講座に対しては良い印象があったため、この数値は低いなと感じてしまったが、その時の受講生の反応が違ったのかもしれない。歴史講座は元々、歴史に興味・関心のある方が多く受講されるので、要求度が高くなるのかもしれないが、さらに満足度を上げることにあえて挑戦するのは、未来志向でよいことではないか。

閉会　15:10